

魅力度向上対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>令和元年12月18日</p> <p>開 会 午前 9 時 5 8 分</p> <p>閉 会 午前 1 1 時 1 5 分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第4特別委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 玉 田 和 浩 副委員長 佐 藤 武 彦</p> <p>委員 村 下 貴 夫 伊 藤 秀 光 野 村 美 穂</p> <p>布 俣 正 也 伊 藤 英 生 澄 川 寿 之</p> <p>平 野 恭 子 平 野 祐 也 小 川 祐 輝</p>
	<p>執 行 部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>係長 横 川 真 澄 係長 佐 藤 貴 一</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 観光産業の基幹産業化に関する取組みについて	
2 県産農畜水産物の海外展開・販路拡大に関する取組みについて	
3 その他	

6 議事録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから魅力度向上対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、重点調査項目に基づき、観光産業の基幹産業化に関する取組み及び県産農畜水産物の海外展開・販路拡大に関する取組みについて協議するため、開催したものである。

それでは、最初に、観光産業の基幹産業化に関する取組みについてを議題とし、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶 崎浦観光国際局長）

（執行部説明 兼松観光企画課長）

○玉田和浩委員長

ただいまの説明に対して、質疑はあるか。

○野村美穂委員

県が主体となって開発したインバウンド向け体験プログラムは、どこでどのように販売するのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

欧米豪の旅行者が訪日旅行商品を申し込む大手サイト「Voyajin（以下「ボヤジン」）」などに、体験プログラムを提示し、オンラインで販売してもらうことを考えている。

また、現在リニューアルしている県の海外向けウェブサイトでも申し込めるようにし、ボヤジンにおいて特集ページを作成し連携するほか、東京オリンピック期間中に日本行きの航空チケットを購入した外国人向けのターゲット広告なども考えている。

○野村美穂委員

地歌舞伎体験ができる場所は決まっているのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

県内の保存団体に参加を募り、参加の意向を示した瑞浪市及び中津川市の4つの保存団体に体験プログラムの造成に向けて調整している。

○平野祐也委員

中部国際空港から高山への直通バスは一日何往復出ているのか。また、どこかの国をターゲットに運行されているのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

もともと一日12往復あった名鉄バスセンターと高山を結ぶ便を一日15往復に増便し、そのうち1便が中部国際空港まで延伸されたもの。

中部国際空港からの出発は17時55分、高山からの出発は8時30分である。アジア・アセアンからのLCC（ローコストキャリア）は朝早くの到着が多いことから、直通バスが少しでも増えるよう働きかけたい。

○伊藤秀光委員

関ヶ原古戦場に宿泊施設がないことを少し不安に感じているが、県としてどのように受け止めているか。

○若山関ヶ原古戦場整備推進課長

関ヶ原町内には大きな宿泊施設はないが、大垣市などの町外で宿泊し、古戦場を訪れる方も多いと承知している。今後、関ヶ原町とも相談して宿泊施設の誘致を進めていきたい。

○兼松観光企画課長

別途、西濃地域及び東濃地域の市町村を重点的に、ホテル事業者とのマッチングを進めている。関ヶ原町についても引き続き取り組んでいきたい。

○伊藤秀光委員

大垣市内では新たに宿泊施設が1棟建設されている。宿泊需要に対応できるように、引き続き対応願いたい。

○澄川寿之委員

関ヶ原ナイトイベントの有料席数は、どの程度あったのか。

○若山関ヶ原古戦場整備推進課長

イス席を約530席設けたほか、無料の立見席として120席ほどを設けた。イス席のうち、交通規制などでご迷惑をお掛けした地元の自治会関係者や県関係者の招待席もあることから、実際の販売枚数は344枚である。

○澄川寿之委員

S席とA席の内訳は。

○若山関ヶ原古戦場整備推進課長

S席が54席、A席が290席である。

○澄川寿之委員

招待客の割合が多かったのか。

○若山関ヶ原古戦場整備推進課長

半分くらいは招待客であり、残りをチケットびあ等で販売したが、想定よりも早く1週間程度で完売した。

○澄川寿之委員

せっかくなので、稼げる仕組みづくりもしてほしい。消費者心理として、安く売りすぎると特別感がなくなる。

関ヶ原のガイドは、目に見えない価値観を伝えることが大切だが、町内から集めているのか。また、ガイドは有料なのか。

○若山関ヶ原古戦場整備推進課長

県外も含め広く参加いただいております、有料で展開している。

○澄川寿之委員

多言語への対応はどうか。言語数は。

○若山関ヶ原古戦場整備推進課長

英語対応が可能なガイドが2人いるほか、フランス語対応が1人、中国語対応が1人いる。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

当該事業のほか、県内の地域やテーマ別の外国語ガイド育成研修を実施しており、先週は西濃地域での武将合戦をテーマに実施した。この中で、関ヶ原古戦場のほか、垂井町や中山道など周辺の資源も含めて案内できる多言語ガイドを育成している。

○布俣正也委員

大河ドラマの「いだてん」は低視聴率だったが、「麒麟がくる」の視聴率を上げるため、どこに力を入れて取り組むのか。

○高井観光企画課観光コンテンツ活用推進室長

ドラマ自体のPRは、NHKが実施することになっている。なお、ゆかりの地では、大河ドラマ館を整備するとともに、NHKと連携したプロモーションを展開している。例えば、開催を調整しているパブリックビューイングもNHKと共催という位置づけで実施するものであり、公式ガイドブックでのゆかりの地のPRも連携の一環。今後、NHKの関連団体が作成する番組情報誌「ステラ」から、ゆかりの地などの情報を抜粋した特別編集版も作成するなど、引き続き連携して対応する予定である。

○小川祐輝委員

オプションツアーの継続性の観点から、例えば、地歌舞伎などは、隈取りや着付けなどに対応する人が稼げるようになっているのかも大切であるが、その点はどうか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

オプションツアーに携わる方が、継続して収入を得られることが大切と考えている。ツアーの造成の際も専門家が参加し、価格を設定している。

○平野祐也委員

オプションツアーの参加料やキャンセル料を確実に支払ってもらうことも大切。現地での、キャンセル対応や両替所の設置などに取り組んでいるのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

オプションツアーの予約は、基本的に「ボヤジン」などのウェブ経由であり、決済もこのウェブにおいて行われる。

○伊藤英生委員

オプションツアーの造成に補助金は入っているのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

オプションツアーの造成に補助金は入っていない。県では、事業者が外国人の受入環境整備のために取り組む、Wi-Fi整備やコミュニケーションツールの導入などに対して補助金による支援を行っている。

○伊藤英生委員

売れないオプションツアーは、内容を見直すといった柔軟性はあるのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

売れ行きが鈍いツアー商品については、提供者とその原因や対応策を話し合いながら、見直すようにしている。

○野村美穂委員

外国人向けに、オプションツアーの魅力を発信するため、インフルエンサーやユーチューバーなどに発信を委託することは考えているのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

現地の旅行会社やメディアの招請事業を行っており、この中で、インフルエンサーなども招請し、刃物や手すき体験などを中心に取り上げてもらうことでPRしている。

○野村美穂委員

特定のインフルエンサーやユーチューバーに、ツアー体験を発信してもらうといった方針はあるのか。

○加藤海外戦略推進課インバウンド推進監

匠の技の体験ツアーのPRのため、その分野に精通している有名デザイナーに紹介記事を書いてもらうといった取組みを行っている。

○野村美穂委員

専門家の記事は、その分野に関心の高い人なら読むが、関心の低い方に体験してみたいと思ってもらうことも必要と考える。こうした方の体験の意欲を引き出すことにも目を向けて発信してほしい。

○兼松観光企画課長

国内向けのPRではあるが、戦国好きや山城好きの一般のライターを募集し、現在、体験記事へのアクセス数が最も高い「ライントラベルジャパン」において、県内での体験談やおいしい食べ物、県内の観光資源などに関する記事を発信してもらっている。

○寺島海外戦略推進課長

体験プログラムについては、個別に短時間の動画を作成しており、ショートムービーの配信サイトであるTikTokでの拡散も期待できる。また、現在リニューアルを進めている海外向けウェブサイト

には、映画「ダ・ヴィンチ・コード」のスタッフが撮影した動画を掲載する。こうした動画をいろいろな方に拡散してもらえるよう取り組んでいく。

○伊藤秀光委員

今年、シドニーで現地事務所と接した際に、あまり情報が伝わっていないとの印象を受けた。海外に展開しているJNTOやCLAIRの現地事務所にも、本県の情報等を伝えてもらうことを要望する。

○小川祐輝委員

外国人延べ宿泊者数は、過去最多のペースということは分かったが、日本人を含めた人数はどうか。

○兼松観光企画課長

日本人の延べ宿泊者数については、ビジネス目的との線引きが困難で、観光目的の規模は計りかねる。一方、観光地点ごとの入込客数を調査しており、こちらは6年間で1,000万人増加している。また、県内のビジネスホテルの稼働率は、全国順位で一桁台と高いことから、宿泊施設が不足していることが伺える。観光関係の正確なデータ把握は難しいが、DMO登録を進める県観光連盟が、データの精度向上に取り組んでおり、より正確なデータを把握するため、連携を図っていきたい。

○玉田和浩委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、質疑を終了する。

次に、県産農畜水産物の海外展開・販路拡大に関する取組みについてを議題とし、執行部の説明を求める。

(執行部説明 田口農産物流通課長)

○玉田和浩委員長

ただいまの説明に対して、質疑はあるか。

○野村美穂委員

オーストラリアの料理学校で飛騨牛カッティングセミナーを実施した狙いは。

○田口農産物流通課長

和牛には独自のカットの仕方があり、それにより品質や味が変わることから、現地シェフを対象に実施した。

○野村美穂委員

鮎の海外での評価は。

○田口農産物流通課長

輸出が好調なタイでは、養殖の子持ち鮎が人気で、卵の食感が好まれている。一方で、天然鮎は、はらわたが苦いとのことで受け入れられなかった。また、調理方法も重要で、オーストラリアでは、フリッターで提供したところ、手軽に食べられると好評であった。

○小川祐輝委員

オーストラリアにおいて、覚書を締結したグローバル・ミート社や飛騨牛海外推奨店の認定式を行ったレストランは、どのように選定したのか。

○田口農産物流通課長

グローバル・ミート社は、一昨年豪州向け牛肉輸出解禁後、一番早く飛騨牛を取り扱った食肉卸業者で、数あるブランド和牛の中でも飛騨牛の取扱いが90%を占めることから、今回覚書の締結に至った。レストランは、グローバル・ミート社が推薦する販売先の中から、現地調査を行い、実態を確認したうえで選定した。

○小川祐輝委員

オーストラリアでの今後の展開は。

○田口農産物流通課長

グローバル・ミート社との協力覚書に基づき、現地レストランでの飛騨牛メニューフェアを3年程度

継続し、飛騨牛海外推奨店の認定につなげていく。

○平野祐也委員

柿の輸出に関する取組状況は。

○田口農産物流通課長

柿の輸出は、香港、タイなど、アジアを中心に伸びている。近年は、県の試験場が冷蔵貯蔵技術を開発し、出荷時期を2月まで伸ばすことで、春節需要にも対応している。また、栽培園地の指定といった条件はあるものの、新たな輸出先としてオーストラリアやアメリカでの販路開拓も進めている。

○平野祐也委員

干し柿はどうか。

○田口農産物流通課長

現在は、干し柿の輸出には取り組んでいない。加工品には様々な検疫上の規制があり、現地ニーズを踏まえ、対応を検討していきたい。

○野村美穂委員

香港百貨店「YATA」のCEOを招聘した経緯は。

○田口農産物流通課長

昨年度のトップセールスにおいて、「YATA」との間で締結した県産農産物のブランド力向上に関する協力覚書に基づき、招聘を行った。

CEOや同社バイヤーに生産現場を見ていただいたことで、これまで同社では取扱いのなかった岐阜鮎及び岐阜枝豆の販売フェアの開催につながった。今後も、協力覚書に基づく取組みを継続していきたい。

○伊藤秀光委員

オーストラリアのプロモーションの際、鮎の頭とはらわたがなかったと記憶しているが、どうか。

○田口農産物流通課長

オーストラリアは検疫上のルールで、鮎を輸出する際、頭と内臓を除去しなければならなかった。なお、オーストラリア向け鮎の商業輸出は認められていないことから、解禁に向けて取組みを進めている。

○野村美穂委員

ハラールと畜と通常のと畜との違いは。

○田口農産物流通課長

ハラールと畜は、イスラム教徒が牛を仮死状態のまま放血させる。JA飛騨ミートでは対応できないため、九州まで生体を運んでと畜している。

○佐藤武彦副委員長

「郡上鮎」と「岐阜鮎」の呼称は、どう使い分けているのか。

○田口農産物流通課長

「岐阜鮎」は、県全体の鮎をPRするための呼称として、使用している。

○玉田和浩委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、質疑を終了する。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、他に何か意見等はあるか。

意見等もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

魅力度向上対策特別委員会 配席図

令和元年12月18日(水)10:00～
第4特別委員会室

入
口

		農産物流通課 東京オリンピック・パラリンピック 農産物販売対策室長 高木 賢二	海外戦略推進課 インバウンド推進監 加藤 英彦	観光企画課 観光コンテンツ活用推進室長 高井 哲也	観光企画課 管理監 浦崎 宏幸	関ヶ原古戦場整備推進課 施設整備企画監 澤村 隆幸		
--	--	--	-------------------------------	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------	--	--

	農産物流通課長 田口 博康	海外戦略推進課長 寺島 禎見	観光企画課長 兼松 伸和	観光国際局長 崎浦 良典	観光国際局副局長 尾関 新太郎	関ヶ原古戦場整備推進課長 若山 典		
--	------------------	-------------------	-----------------	-----------------	--------------------	----------------------	--	--

